

監修

新村 出
山岸 徳平

高木市之助
小島 吉雄

久松 潜一

萬

葉

集

五

佐伯梅友校註
藤森朋夫校註
石井庄司校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

佐伯梅友（さへきうめとも）

明治三十二年埼玉縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學名譽教授。大東文化大學教授。主著―萬葉語研究、源氏物語新抄、古今和歌集等。

藤森朋夫（ふぢもりともを）

明治三十一年長野縣生。昭和四年東北大學國文學科卒業。東京女子大學教授を経て大東文化大學教授主著―堤中納言物語新釋、萬葉集研究書誌、近代秀歌等。

石井庄司（いしゐしやうじ）

明治三十三年奈良縣生。昭和三年京都大學國文學科卒業。東京教育大學教授を経て東海大學教授。主著―國文學と國語教育、國語科教育法案等。

日本古典全書

「萬葉集」五 佐伯梅友・藤森朋夫

石井庄司校註

昭和三十年五月三十日初版發行

昭和四十二年二月二十日第五版發行

印刷所 明善印刷株式會社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田

區有樂町・大阪市北區中之島・

北九州市小倉區砂津・名古屋市

中區榮）

定價 四二〇圓

目次

本文

〔訓〕

卷第十八 三

四〇三 天平二十年春三月二十三日、左大臣橘卿の使田邊

史福鷹ふしとろきまろを越中の守大伴家持の館に饗す。時に新に

作り、并に古詠を誦して、各心緒おのこころもろを述ぶる歌四

首

四〇三 時に明日、布勢ふせの水海みづうみに遊覽せむと期しき。より

て懷おもひを述べて、各作おのれる歌八首

四〇四 二十五日、大伴宿禰家持の、布勢の水海に往く道

中なかに馬上の口號二首

目次

〔原文〕

卷第十八 一四三

四〇三 天平二十年春三月二十三日左大臣

橘卿使田邊史福鷹饗越中守大伴家

持館時新作并誦古詠各述心緒歌四

首

四〇三 于時期之明日將遊覽布勢水海仍述

懷各作歌八首

四〇四 二十五日大伴宿禰家持往布勢水海

道中馬上口號二首

一

四〇四 水海に至りて遊覽せし時、各懷を述べて作れる歌

四〇四 至水海遊覽時各述懷作歌六首

六首

四〇三 椽久米朝臣廣繩の館の宴に、田邊史福麿を饗する

四〇三 椽久米朝臣廣繩館宴饗田邊史福麿

歌四首

歌四首

太^{おほすめりみこと}上^{なごは}皇難波の宮に在^ましましし時の歌七首

太上皇御在於難波宮時歌七首

四〇五 左大臣橘宿禰の歌一首

四〇五 左大臣橘宿禰歌一首

四〇七 御製、和^{こた}へませる歌一首

四〇七 御製和歌一首

四〇五 御製の歌一首

四〇五 御製歌一首

四〇五 河内女王の奏^{まを}せる歌一首

四〇五 河内女王奏歌一首

四〇六 栗田女王の奏^{まを}せる歌一首

四〇六 栗田女王奏歌一首

四〇六 御船綱手を以^もちて江を^{さかのぼ}りて、遊宴したまひし

四〇六 御船以綱手泝江遊宴時史福麿傳誦

時、史福麿の傳^{まを}へ誦める歌二首

歌二首

四〇三 後に橘に追^{おと}ひ和^{こた}ふる大伴家持の歌二首

四〇三 後追和橘大伴家持歌二首

四〇五 山^{やまのうへ}上の臣^{おみ}の、射水郡の驛館の屋の柱に題し著けた

四〇五 山上臣射水郡驛館之屋柱題著歌一

る歌一首

首

四〇六 四月一日、椽久米朝臣廣繩の館にて宴せる歌四首

四〇六 四月一日椽久米朝臣廣繩館宴歌四首

四〇七 先の國師、館より京に入らむと欲りす。飲饌を設

四〇七 先國師從館欲入京設飲饌宴時主

けて饗宴しし時、主人大伴家持の、庭中の牛麥の

人大伴家持詠庭中牛麥花歌一首

花を詠める歌一首

四〇七 大伴家持重ねて作れる歌二首

四〇七 大伴家持重作歌二首

四〇七 三月十五日、越前の國の椽大伴池主の來贈れる歌

四〇七 三月十五日越前國椽大伴池主來贈

三首

歌三首

四〇七 十六日、越中の守大伴家持の報へ贈れる歌四首

四〇七 十六日越中守大伴家持報贈歌四首

四〇八 姑大伴氏の坂上郎女の、越中の守大伴家持に來

四〇八 姑大伴氏坂上郎女來贈越中守大伴

贈れる歌二首

家持哥二首

四〇八 大伴家持の報ふる歌二首

四〇八 大伴家持報歌二首

四〇八 また別に所心の歌一首

四〇八 又別所心歌一首

四〇八 天平感寶元年五月五日、東大寺の占墾地の使僧平

四〇八 天平感寶元年五月五日饗東大寺占

榮を饗しき。時に守大伴家持の、酒を送る歌一首

墾地使僧平榮時守大伴家持送酒歌

一首

四〇八六 同九日、諸僚、少目秦伊美吉の石竹の館に會ひ

て飲宴せし時、百合の花縵を造り、捧げて賓客に

贈る。各この縵を賦める歌三首

四〇八九 十日、大伴家持の、ひとり幄のうちにゐて、遙に

ほととぎすの鳴くを聞きて作れる歌一首并に短歌

四〇九三 英遠の浦に行きし日に作れる歌一首

四〇九四 天平感寶元年五月十二日、守大伴家持の、越中の

國の館にて陸奥より金を出だせるを賀ぐ詔書の歌

一首并に短歌

四〇九六 芳野の離宮に幸行さむ時、かねて作れる歌一首

并に短歌

四〇一二 十四日、大伴家持の、京の家に贈らむために、眞

珠を願ふ歌一首并に短歌

四〇一六 十五日、大伴家持の、史生尾張少昨を教へ諭す歌

四〇八六 同九日諸僚會少目秦伊美吉石竹館

飲宴時造百合花縵捧贈賓客各賦此

縵歌三首

四〇八九 十日大伴家持獨居幄裏遙聞霍公鳥

喧作歌一首并短歌

四〇九三 行英遠浦之日作哥一首

四〇九四 天平感寶元年五月十二日守大伴家

持於越中國館賀陸奥出金詔書歌一

首并短歌

四〇九六 幸行芳野離宮時儲作歌一首并短

歌

四〇一二 十四日大伴家持爲贈京家願眞珠歌

一首并短歌

四〇一六 十五日大伴家持教諭史生尾張少昨

一首 并に 短歌

四二〇 十七日、大伴家持、先の妻、夫君の使を待たず、

みづから來りし時の歌一首

四二一 二十三日、大伴家持の橘の歌一首 并に 短歌

四二二 二十六日、大伴家持の、庭中の花を詠めて作れる

歌一首 并に 短歌

四二六 椽久米朝臣廣繩、天平二十年に、朝集使に附きて

京に入り、天平感寶元年閏五月二十七日日本任に還

りき。時に守大伴家持の作れる歌一首 并に 短歌

四二九 ほととぎすの歌一首

四三〇 二十八日、大伴家持の、京に向はむとし、貴人を

見、また美人に相ひて、飲宴せむ日、懷を述べむ

ために、かねて作れる歌二首

四三三 六月朔日の晩頭、守大伴家持の、たちまち雨雲の

歌一首 并 短歌

四二〇 十七日大伴家持先妻不待夫君使自

來時歌一首

四二一 廿三日大伴家持橘歌一首 并 短歌

四二二 二十六日大伴家持詠庭中花作歌一

首 并 短歌

四二六 椽久米朝臣廣繩天平二十年附朝集

使入京天平感寶元年閏五月二十七

日還本任時守大伴家持作歌一首

并 短歌

四二九 霍公鳥歌一首

四三〇 二十八日大伴家持爲向京見貴人及

相美人飲宴日述懷儲作歌二首

四三三 六月朔日晚頭守大伴家持忽見雨雲

氣を見て作れる歌一首 短歌一絶

四三四 四日、大伴家持の、雨の降るを賀^{ことほ}ぐ歌一首

四三四 四日大伴家持賀雨落歌一首

四三五 七月七日、大伴家持の七夕の歌一首 并に 短歌

四三五 七月七日大伴家持七夕哥一首 并

短歌

四三六 越前の國の大椽大伴池主の來贈れる戲歌四首

四三六 越前國大椽大伴池主來贈戲歌四首

四三三 更に來贈れる歌二首

四三三 更來贈歌二首

四三四 天平勝寶元年十二月、大伴家持の、雪月梅花を詠^よめる歌一首

四三四 天平勝寶元年十二月大伴家持詠雪月梅花哥一首

四三五 少目秦伊美吉の石竹の館^{うんげ}の宴に、守大伴家持の作れる歌一首

四三五 少目秦伊美吉石竹館宴守大伴家持作歌一首

四三六 同二年正月二日、國の廳にて饗を諸郡司に給ふ時、大伴家持の作れる歌一首

四三六 同二年正月二日於國廳給饗諸郡司時大伴家持作歌一首

四三七 五日、判官久米朝臣廣繩の館の宴の時、大伴家持の作れる歌一首

四三七 五日判官久米朝臣廣繩館宴時大伴家持作歌一首

四三六 二月十一日、守大伴家持の、たちまちに風雨起り

四三六 二月十一日守大伴家持忽起風雨不

て、辭去することを得ずて作れる歌一首

得辭去作歌一首

卷第十九 五二

卷第十九 101

四三 天平勝寶二年三月一日の暮に桃李の花を詠める歌

四三 天平勝寶二年三月一日之暮詠桃李

二首

花歌二首

四四 翻^とび翔^かける鳴^{しづ}を見て作れる歌一首

四四 見翻翔鳴作歌一首

四四 二日、柳^{やなぎのまよひ}黛^よを攀^みちて京師^{みやこ}を思^{しの}ぶ歌一首

四四 二日攀柳黛思京師歌一首

四四 堅^{かた}香^か子^か草の花を攀^かぢ折る歌一首

四四 攀折堅香子草花歌一首

四四 歸る雁を見る歌二首

四四 見歸鴈歌二首

四四 夜のうちに千鳥の鳴くを聞く歌二首

四四 夜裏聞千鳥喧歌二首

四四 曉に鳴く雉^{きじ}を聞く歌二首

四四 聞曉鳴鳩歌二首

四五 遙^{さかのぼ}に江を浜^{うたげ}る船人の唱^{うた}を聞く歌一首

四五 遙聞浜江船人唱歌一首

四五 三日、越中の守大伴宿禰家持の館に宴^{うたげ}する歌三首

四五 三日越中守大伴宿禰家持之館宴歌

三首

四五 八日、白き大鷹を詠^よめる歌一首 并に 短歌

四五 八日詠白大鷹歌一首 并 短歌

四二五 鷗うを潜かづくる歌一首 并に 短歌

四二五 澁溪しぶたにの埼みさきを過ぎて巖上の樹を見る歌一首

四二六 世間よのなかの常無きを悲しむ歌一首 并に 短歌

四二三 かねて作れる七夕たなばたの歌一首

四二四 勇士の名を振ふことを慕ねがふ歌一首 并に 短歌

四二六 ほととぎす并に時の花を詠よめる歌一首 并に 短歌

四二六 家婦ははのふが京にいます尊こと母に贈らむために、詠あはへらえて作れる歌一首 并に 短歌

四二七 二十三日、ほととぎすを詠なめて作れる歌二首

四二七 京なる丹比家たんひに贈れる歌一首

四二四 二十七日、筑紫太宰の時の春の苑の梅の歌に追ひ

和ふる一首

四二五 ほととぎすを詠よめる歌二首

四二七 四月三日、越前の判官大伴池主に贈れるほととぎ

すの歌、感舊の意に勝たへずて懷おもを述ぶる歌一首

四二五 潜鷗歌一首 并 短歌

四二五 過澁溪崎見巖上樹歌一首

四二六 悲世間無常歌一首 并 短歌

四二三 預作七夕歌一首

四二四 慕振勇士名歌一首 并 短歌

四二六 詠霍公鳥并時花歌一首 并 短歌

四二六 爲家婦贈在京尊母所詠作歌一首 并

短歌

四二七 二十三日詠霍公鳥作歌二首

四二七 贈京丹比家歌一首

四二四 二十七日追和筑紫太宰之時春苑梅

歌一首

四二五 詠霍公鳥歌二首

四二七 四月三日贈越前判官大伴池主霍公

鳥歌不勝感舊之意述懷歌一首 并

并に 短歌

四一八〇 ほととぎすを感じ^める情^{こころ}に飽かず、懷^{おもひ}を述べて作れ

る歌一首 并に 短歌

四一八四 四月五日、京師^{みやこ}より贈^{きた}り來る歌一首

四一八五 山吹の花を詠^よめる歌一首 并に 短歌

四一八七 六日、布勢の水海に遊覽して作れる歌一首 并に

短歌

四一八九 九日、水鳥^うを越前の判官大伴池主に贈れる歌一首

并に 短歌

四一九三 ほととぎす并に藤の花を詠める一首 并に 短歌

四一九四 更にほととぎすの鳴くこと晚^{おそ}きを怨むる歌三首

四一九七 京の人に贈れる歌二首

四一九九 十二日、布勢の水海に遊覽して、藤の花を望み見

て各懷^{おののおもひ}を述ぶる歌四首

四二〇三 ほととぎすの鳴かざるを恨むる歌一首

短歌

四一八〇 不飽感霍公鳥之情述懷作哥一首并

短歌

四一八四 四月五日從京師贈來歌一首

四一八五 詠山振花歌一首 并 短歌

四一八七 六日遊覽布勢水海作歌一首 并 短

歌

四一八九 九日贈水鳥越前判官大伴池主歌一

首 并 短歌

四一九三 詠霍公鳥并藤花一首 并 短歌

四一九四 更怨霍公鳥哢晚歌三首

四一九七 贈京人歌二首

四一九九 十二日遊覽布勢水海望見藤花各述

懷詞四首

四二〇三 恨霍公鳥不喧歌一首

四〇四 攀ち折れる保寶葉を見る歌二首

四〇六 守大伴家持の、月光を仰ぎ見る歌一首

四〇七 二十二日、大伴家持の、判官久米廣繩に贈れるは

ととぎすの怨恨の歌一首 并に 短歌

四〇九 二十三日、椽久米廣繩の、家持に和へて作れる歌

一首 并に 短歌

四二一 五月六日、大伴家持の、處女墓の歌に同ふる一首

并に 短歌

四二三 京なる丹比家に贈れる歌一首

四二四 二十七日、大伴宿禰家持の、掣南右大臣家の藤原

二郎が慈母を喪へるを弔ふ挽歌一首 并に 短歌

四二七 霖雨の晴るる日に作れる歌一首

四二八 漁夫の火花を見る歌一首

四二九 六月十五日、芽子の早花を見る歌一首

四〇四 見攀折保寶葉歌二首

四〇六 守大伴家持仰見月光歌一首

四〇七 二十二日大伴家持贈判官久米廣繩

霍公鳥怨恨歌一首 并 短歌

四〇九 二十三日椽久米廣繩和家持作歌一

首 并 短歌

四二一 五月六日大伴家持同處女墓歌一首

并 短歌

四二三 贈京丹比家歌一首

四二四 二十七日大伴宿禰家持弔掣南右大

臣家藤原二郎之喪慈母挽歌一首 并

短歌

四二七 霖雨晴日作歌一首

四二八 見漁夫火光歌一首

四二九 六月十五日見芽子早花歌一首

四三〇 大伴氏の坂上郎女の、京師より女子の大嬢に

來賜へる歌一首 并に 短歌

四三一 九月三日、宴の歌二首

四三四 吉野の宮に幸しし時、藤原皇后の作りませる歌一首

首

四三五 十月十六日、朝集使少目秦伊美吉の石竹を 饒せ

し時、大伴家持の作れる歌一首

四三六 十二月、大伴家持の、雪の日に作れる歌一首

四三七 三形沙彌の、左大臣に贈れる歌二首

四三九 天平勝寶三年正月二日、降れる雪殊に多し。守大

伴宿禰家持の館にて宴せる歌一首

四四〇 三日、介内藏忌寸繩麻呂の館にて宴樂せし時、大

伴家持の作れる歌一首

四四一 同日、椋久米朝臣廣繩の作れる歌一首

四四三 遊行女婦蒲生娘子の歌一首

四三〇 大伴氏坂上郎女從京師來賜女子大

嬢歌一首 并 短歌

四三一 九月三日宴歌二首

四三四 幸吉野宮時藤原皇后御作歌一首

四三五 十月十六日饒朝集使少目秦伊美吉

石竹時大伴家持作歌一首

四三六 十二月大伴家持雪日作歌一首

四三七 三形沙彌贈左大臣歌二首

四三九 天平勝寶三年正月二日零雪殊多守

大伴宿禰家持館宴歌一首

四四〇 三日介内藏忌寸繩麻呂館宴樂時大

伴家持作歌一首

四四一 同日椋久米朝臣廣繩作歌一首

四四三 遊行女婦蒲生娘子歌一首

四三三 同日、酒酣にして、更深け鷄鳴くに、内藏伊美

四三三 同日酒酣更深鷄鳴内藏伊美吉繩麻

吉繩麻呂の作れる歌一首

呂作歌一首

四三四 守大伴家持の和ふる歌一首

四三四 守大伴家持和歌一首

四三五 太政大臣藤原家の縣あがたのいぬかりのひめとね犬養命婦の、天皇に奉れる

四三五 太政大臣藤原家之縣犬養命婦奉天

歌一首

皇歌一首

四三六 死し妻を悲しみ傷む歌一首 并に 短歌

四三六 悲傷死妻歌一首 并 短歌

四三七 二月二日、判官久米廣繩、正稅帳を以ちて應に京

四三七 二月二日判官久米廣繩以正稅帳應

師に入らむとす。よりて大伴家持の作れる歌一首

入京師仍大伴家持作歌一首

四三八 四月十六日、大伴家持の、ほととぎすを詠める歌

四三八 四月十六日大伴家持詠霍公鳥歌一

一首

首

四三九 春日にて神を祭りし日、藤原太后の、入唐大使藤

四三九 春日祭神日藤原太后賜入唐大使藤

原朝臣清河に賜ひて作りませる歌一首

原朝臣清河御作歌一首

四四〇 大使藤原朝臣清河の歌一首

四四〇 大使藤原朝臣清河歌一首

四四一 大納言藤原家にて入唐使を餞する歌三首

四四一 大納言藤原家餞入唐使歌三首

四四二 天平五年、入唐使に贈れる歌一首 并に 短歌

四四二 天平五年贈入唐使歌一首 并 短歌

四三七 阿倍朝臣老人あべのちのぢみおきなの、唐に遣さえし時、母に奉りて別

を悲しむ歌一首

四三七 阿倍朝臣老人遣唐時奉母悲別歌一

首

四三六 七月十七日、越中の守家持の、少納言に遷任せら

四三六 七月十七日越中守家持遷任少納言

えて別を悲しむ歌を作り、朝集使椽久米廣繩の館に贈り貽のこせる歌二首

作悲別歌贈貽朝集使椽久米廣繩館
二首

四三〇 八月四日、内藏伊美吉繩麻呂の館に國厨の饌を設

四三〇 八月四日内藏伊美吉繩麻呂館設國

け、大帳使大伴家持を餞はなひけせし時、家持の作れる

厨之饌餞大帳使大伴家持時家持作

歌一首

歌一首

四三二 五日平旦、大帳使大伴家持の、内藏伊美吉繩麻呂

四三二 五日平旦大帳使大伴家持和内藏伊

の盞さかづきを捧ぐる歌に和ふる一首

美吉繩麻呂捧盞歌一首

四三三 正稅使椽久米朝臣廣繩の、事畢へて任に退り、越

四三三 正稅使椽久米朝臣廣繩事畢退任遇

前の國の椽大伴池主の館に遇ひし時、久米廣繩の、

越前國椽大伴池主館時久米廣繩詠

芽子はぎの花を詠めて作れる歌一首

芽子花作歌一首

四三三 大伴家持の和ふる歌一首

四三三 大伴家持和歌一首

四三四 京に向ふ路上にして、興によりて、かねて作り、

四三四 向京路上依興預作侍宴應詔歌一首

宴に侍ひて詔に應ふる歌一首 并に 短歌

四三六 左大臣橘卿を壽がむため、かねて作れる歌一首

四三七 十月二十二日、左大辨紀飯麻呂朝臣の家にて宴せる歌三首

四三〇 壬申の年の亂の平定せし以後の歌二首

四三三 閏三月、衛門督古慈悲宿禰の家にて、入唐副使同

じ胡麻呂等を餞せる歌二首

四三四 高麗朝臣福信を難波に遣して、肴酒を入唐使藤原

朝臣清河等に賜へる御歌一首 并に 短歌

四三六 大伴家持の、詔に應へむために、かねて作れる

歌一首 并に 短歌

四三六 天皇、太后、共に大納言藤原卿の家に幸しし時、

黄葉せる澤 蘭を大納言藤原卿并に陪従の大夫

に賜へる御歌一首

四三九 十一月八日、太上天皇の、左大臣橘朝臣の宅にて、

并 短歌

四三六 爲壽左大臣橘卿預作歌一首

四三七 十月二十二日於左大并紀飯麻呂朝

臣家宴哥三首

四三〇 壬申年亂平定以後歌二首

四三三 閏三月於衛門督古慈悲宿禰家餞之

入唐副使同胡麻呂等歌二首

四三四 高麗朝臣福信遣於難波賜肴酒入唐

使藤原朝臣清河等御歌一首并短歌

四三六 大伴家持爲應詔儲作歌一首并短

歌

四三六 天皇太后共幸於大納言藤原卿家時

賜黄葉澤蘭於大納言藤原卿并陪従

大夫御歌一首

四三九 十一月八日太上天皇於左大臣橘朝